

平成 29 年 6 月 5 日

会 員 各 位

構 造 懇 話 会
会 長 森 川 英 典

第 490 回 構造懇話会 平成 29 年度 幹事会および例会のご案内

構造懇話会の運営に際しまして、日頃よりご支援賜り、誠に有難うございます。
標記の平成 29 年度幹事会および例会を下記のとおり開催いたします。
つきましては、多数ご出席下さいますようご案内申し上げます。

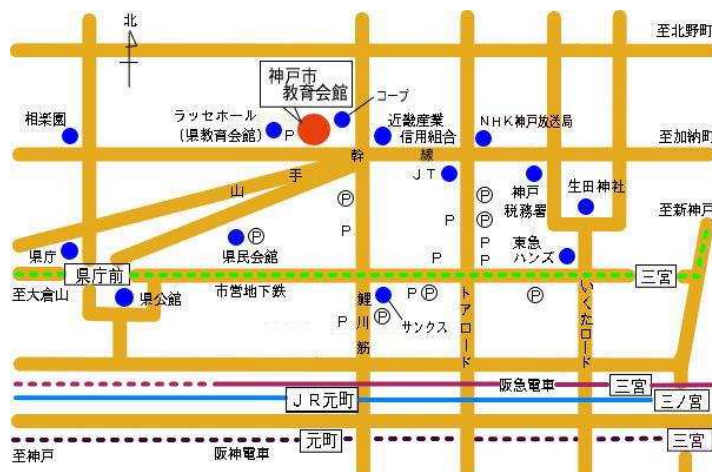
記

1. 日 時 平成 29 年 6 月 26 日 (金) 13:30～16:30
2. 場 所 **神戸市教育会館 501 号室**
神戸市中央区中山手通 4-10-5 TEL 078-222-4111
3. 議 題
 - 1) 幹事会 13:30～14:20
休憩 14:20～14:30
 - 2) 例会 ①部 14:30～15:25
『 片品川橋の耐震補強について 』
日立造船(株) 鉄構・防災ビジネスユニット 鉄構・橋梁部 橋梁設計課 樫本修二氏
休憩 15:25～15:35
 - 3) 例会 ②部 15:35～16:30
『 塩害劣化した既設 PC 道路橋の構造安全性評価および維持管理の信頼性向上に関する研究 』
神戸大学 大学院 工学研究科 市民工学専攻 美濃 智広 氏

[連絡先] 〒530-0012 大阪市北区芝田 1-4-8 北阪急ビル 4 階
阪急設計コンサルタント株式会社 岡重 嘉泰

TEL : 06-6359-2756 / FAX : 06-6359-2762 / e-mail : okashige-y873@sekkei.hankyu.co.jp

[案内図]



構造懇話会 URL <http://www.kozokonwakai.org/>

第 490 回 構造懇話会 例会での報告概要

1. 『片品川橋の耐震補強について』

①報告者

日立造船(株) 鉄構・防災ビジネスユニット 鉄構・橋梁部 橋梁設計課 榎本修二氏

②報告内容

片品川橋は、昭和 60 年に開通した橋長約 1034m の 3 径間連続長大トラス橋 3 連である。上下線一体構造のため主構間隔が 16m、主構高は 25m となり、山間の河川を跨ぐため約 60m の高橋脚が連続する。このような片品川橋に対し最新の耐震基準に基づき、上部工の耐震設計および耐震補強（免震支承への取り替え、制震ダンパーの設置、当板による補強、変位制限装置の設置等）を行った。耐震設計では上下部工を含む橋梁全体系をファイバー要素でモデル化し、幾何学的非線形性を考慮した複合非線形解析により照査を行った。また、施工の安全性を確認するため、支承取替え時の巻立てコンクリートの耐荷力に関しての FEM 解析等種々の検討を実施した。本発表では、その概要について紹介する。

2. 『塩害劣化した既設 PC 道路橋の構造安全性評価および維持管理の信頼性向上に関する研究』

①報告者

神戸大学 大学院 工学研究科 市民工学専攻 美濃 智広 氏

②報告内容

既設 PC 道路橋においては、グラウト充填不良に起因した塩害劣化により鋼材の腐食・破断といった深刻な損傷が生じている。しかしながら、橋梁の診断に関する技術が確立されておらず、さらに、自治体、特に市町村においては維持管理組織体制が脆弱であるという課題がある。

本研究では、これまで劣化メカニズムが明らかになっていない凍結防止剤使用環境下のグラウト充填不良を有する既設ポステン PCT 桁橋の PC 鋼線の腐食および破断現象を対象に、構造安全性評価手法の信頼性を向上させる手法を提案した。また、自治体道路橋梁の維持管理段階における組織体制に着目し、府県と市町村内部組織のマネジメントシステムにまで踏み込んだ実態を分析し、問題点を明らかにするとともに、橋梁維持管理の実践事例を示し、市町村管理道路橋の維持管理の信頼性を向上させる方策を提案した。